

令和 6 年 6 月 26 日現在

機関番号：23901

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K11200

研究課題名（和文）渡航看護のコンピテンシー・モデルの開発と渡航看護認識向上プログラムの検討

研究課題名（英文）Clarification of travel health nursing competencies and verification of the effectiveness of programs to improve awareness of travel health nursing

研究代表者

青柳 美樹（Aoyagi, Miki）

愛知県立大学・看護学部・准教授

研究者番号：60334976

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：日本の渡航看護のコンピテンシーを明確化することを目的とした。渡航看護関連文献、学校保健・産業保健・トラベルクリニックの看護職へのインタビューからコンピテンシーと解釈できる項目を抽出し、段階的に統合、精緻化を行った。91コンピテンシーを看護活動の8領域に分類し、モデル第1案を作成した。活動領域は、渡航看護の基礎的態度、渡航者支援の準備、渡航者の安全とセルフケア能力向上のための支援、渡航者のアセスメント、ハイリスク渡航者への支援、ネットワークの構築、健康支援システムにおける連携とマネジメント、支援活動の評価であった。今後の研究は23K10206に引き継ぎ、検討を重ねる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

毎年1,500万人を越える渡航者がいるにも関わらず、活動指針となる我が国に適したコンピテンシーは明らかにされていなかった。コンピテンシーの解明は看護職者および看護学生に対する渡航看護の認識向上と看護の質の向上のために意義がある。更に、看護の質の向上は、渡航者のセルフケア能力の獲得・向上に寄与すると考える。

本研究では、コアコンピテンシーの第1案が作成されたが、まだ明らかになっていない渡航看護の概念を明確化とともに、グローバルヘルスナースング組み込んだ新しい教育体系を提案することができると思う。

研究成果の概要（英文）： The purpose of this study was to clarify the competencies required for travel nursing in Japan. Competency-related items were extracted from travel nursing literature and interviews with nurses in school health, occupational health, and travel clinics. These items were then systematically integrated and refined. The first draft model was developed by categorizing 91 competencies into eight areas of nursing activities. Eight areas of activity classified: basic attitudes in travel nursing, preparation for traveler support, support for enhancing traveler safety and self-care abilities, assessment of travelers, support for high-risk travelers, network building, collaboration and management within health support systems, and evaluation of support activities. Moving forward, the competencies of general nurses and those with experience in traveler support will be further clarified. Future research will be passed on to 23K10206.

研究分野：公衆衛生看護

キーワード：渡航看護 コンピテンシー モデル 渡航者 産業保健 学校保健 クリニック 外来看護

1. 研究開始当初の背景

渡航者数は、2014年を除き1995年より1,500~1,800万人で推移している¹⁾。これら渡航者の渡航前・中・後の健康支援を行う領域は、「国際間の人々の移動に伴う健康問題や疾病を究明し予防する医学」と定義される渡航医学であり、渡航医学に関わる看護を渡航看護という。日本でこれらの概念が知られるようになったのは、約20年前である。

全ての渡航者は渡航による健康リスクを抱えており、また、健康問題を抱えて帰国することも少なくない²⁾。海外渡航で生じる健康問題は、細菌やウイルスによる感染症、地域特性や環境の変化によって生じる問題、メンタルヘルスの不調や生活習慣病の問題、不慮の事故があげられる³⁾。また、その健康問題は、高齢者や小児など、対象によって変化する⁴⁾。しかし、わが国の渡航者は、欧米諸国の渡航者に比較して健康リスクを過小評価している^{5,6)}。渡航者は、子どもから高齢者、妊産婦、あらゆる健康レベルの人である^{7,8)}。渡航看護は、国内約110か所のトラベルクリニックだけでなく、学校、産業、病院など多様な場で、全ての対象者に対して個別の健康支援、多職種とのコーディネートや啓発活動までの幅広く提供される必要がある。しかし、看護職養成校において渡航看護に関する教育がほとんど実施されておらず⁹⁾、渡航看護に対する看護職の認識の低さが課題となっている。渡航看護に対する認識の低さは、対象者への看護の質に直結する。人材育成を目的として生まれたコンピテンシーは、知識やスキルだけでなく、態度や価値観を含んでおり、職務タスクにおける行動を予測できる利点がある¹⁰⁾。渡航看護のコアコンピテンシーは、英国によって開発された¹¹⁾。しかし、日本と英国では渡航看護の教育や活動の場が異なる¹²⁾ことから、英国のコアコンピテンシーが日本に適していない可能性がある。更に、日本の多様な活動の場に応じた渡航看護のコンピテンシーを明らかにすることは、それぞれの場で活動する看護職が渡航看護の活動評価を行う指針となるとともに、看護を提供される渡航者の健康管理能力の獲得に寄与すると推測する。

なお、本研究では、海外渡航者に対し、効果的、あるいは卓越した看護ケアを生む要素である、知識、判断力、スキル、実行力、経験、モチベーションを含む個人の行動特性と定義した。また、渡航医学に関わるTravel Health Nursingを本研究者が渡航看護と邦訳している。

2. 研究の目的

先行研究とインタビュー調査から、渡航看護のコアコンピテンシーと産業保健、地域保健（保健所・訪問看護・地域包括支援センター）、学校保健などの場の特徴に応じたコンピテンシーを明らかにすることを目的とした。

3. 研究の方法

先行研究とインタビューの逐語録から、渡航看護のコンピテンシーと判断される項目を抽出、精緻化し、第1案を作成した。

(1) 第1段階

医学中央雑誌、Google Scholar およびCiNiの検索サイトから、渡航者、海外渡航、看護、学校、産業、クリニック、検疫、障がい、疾病、生活習慣病、妊娠、こども、高齢者をキーワードとして組み合わせて抽出した文献から、渡航看護のコンピテンシーと考えられた表現を抽出し、コード化した。コード化と文献選択を繰り返し、異なるコードが見いだせなくなった時点で終了とした。計74文献を使用した。コード化したものは、重要でない文章や同じ意味の言い換えの削除、同じ意味の言い換えを束ねて要約を行い、最終的に180のコードに整理した。また、スペンサーら⁴⁾のコンピテンシー・ディクショナリのクラスターのいずれかにコードが該当することを確認した。

(2) 第2段階

トラベルクリニック、トラベルナース、産業医看護師、大学健康管理センター保健師の計10名に渡航者支援に関するインタビューを行った（岩倫207号）。逐語録から渡航看護のコンピテンシーと考えられる語りを抽出し、文献からの抽出と同様の手順を踏んで338コードを生成した。

(3) 第3段階

文献とインタビューから抽出したコードは、更に同じ手順を繰り返し、スペンサーらのコンピテンシー・ディクショナリのクラスターを考慮しながら238コードに統合した。その後コンピテンシー領域の作成を試みた。

(4) 第4段階

第3段階でのコードと領域を精緻化した。

4. 研究成果

(1) 第1段階

文献から抽出されたコードの例として、「海外からの感染情報を受け、適切な対応ができるよう準備している」「健康に関する情報発信力を養っている」「渡航先の生活情報を獲得している」

など、渡航看護に関する知識・情報の獲得等、看護活動に必要な基礎的能力の獲得について抽出された。また、直接的な支援に関わる準備として「渡航者の健康マニュアルを作成している」などが示された。

渡航者支援に関するコードとして「渡航者が海外の医療情報を入手できるよう支援している」「渡航後の医療機関選択に関する情報提供を行っている」「感染経路の不用意なリスク行動の回避についての理解を促している」「渡航先の日常生活に関する情報提供を行っている」「渡航への準備が不十分な渡航者への支援を行っている」「複数のワクチンを接種する場合のパターン別スケジュールモデル表を準備する」などの渡航者自身が健康リスクを認識し、セルフケア行動に移すことができるようなコンピテンシーが抽出された。また、「ハイリスク渡航者の渡航者の健康リスクをアセスメントしている」「ハイリスク渡航者の渡航したいリスクを受け止める」「ハイリスク渡航者の渡航スケジュールによる内服や生活行動の調整を一緒に行っている」などの、ハイリスク渡航者の渡航支援に関するコンピテンシーも示された。

一方で、渡航者を支援する体制づくりとして、「渡航後の健康支援を行う窓口を決めている」「渡航者が滞在中に健康や安全の確認および相談ができる体制を構築している」などが抽出された。

74 文献から 180 のコンピテンシーを制止生成するためのコードを抽出した。

(2) 第2段階

インタビューから、抽出されたコードは、「自己の体験を留学生の体験に置き換えることで留学生に対する支援の感覚を磨いている」「学生への還元のために知人等の体験を活用して海外生活への具体的なイメージを蓄積している」「患者・家族のニーズをアセスメントして対応している」「海外からの連絡を受けた情報と異なっている状態である場合があることを認識している」「診察中の受診者の様子をアセスメントし、診察後の受診者の保健指導を行っている」「海外赴任者に関わる組織の立場・文化に違いがあることを知っている」「院内に海外らの相談システムに構築に参画している」「海外赴任者の健康管理システム運用のための事例を蓄積する」「連携体制における課題を明確にしている」など、コンピテンシーを導くための330のコードを抽出した。

例として、「連携体制における課題を明確にしている」では、「ある意味、教員と産業医は対等な関係にありますので。看護職から言っても通じないことは、産業医に言ってもらおうか・・・。産業医も複数居まして。全員タイプが違うので、その使い方もさまざまではありますが(笑)。・・・産業医の特性に合わせて変えたりしながら、なんとかやっています。」などの言葉をコードとして置き換えた。また、「患者・家族のニーズをアセスメントして対応している」は、「その目的で、それだけの目的で来られたんですけども、その話をこちらからほかのワクチンはいいの？とか、マラリアのこととか、どうするっていう問いかけをしたら、「何も知りません、やりません、わかりません」という感じだったので。」などから作成した。

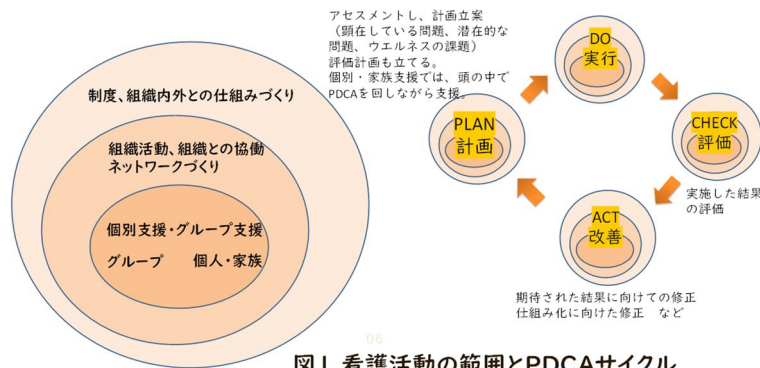
「渡航に必要なワクチン接種勧奨を行っている」は、「診察のあとは、もちろん接種後のご注意とかを話しながら、いろいろなリスクもあるんだよっていうことをもう一度確認をして、もしその気になったら、なるべく今後も受けるようになっていうお話はしました。」などから生成された。「メンタルに疾患をお持ちの方？の医師の診断書ではなくて、心理士さんの鑑定。鑑定って分かるかな。面接の結果とかの結構、長い文章を、そのまま持参したいと言われまして・・・医師のほうも、これは責任を持って全部ご希望どおり書けるか分からない、受け手が希望するどおりに書けるか分からないということで、最初はもうドクターのほうでいったんお断りしようかって思ったことがあったケースがあったんですけども・・・一生懸命、書類など渡航まで必要なフォローを用意したんですけども。私が最初の下書きを作って、医師が臨症的な文章にきちんと直してっていう協力体制。ゼロからはちょっと、ドクターも時間がないってことで。」などから「渡航者が希望する文書の作成の後方支援を行っている。」を生成した。

これらのように生成したコードは、渡航中の自己管理の力をつける支援、渡航前の必要な情報に気づくための支援、関連する組織部署の役割の理解>健康管理支援における関連部署の間の調整役、健康管理システムづくりへの参画、渡航者の異なる背景の理解、活動内容のフィードバックなどに関するコンピテンシー領域に分類されていった。

(3) 第3段階

研究分担者とともに、第1段階と第2段階におけるコードをコンピテンシー・ディクショナリのクラスター、および看護のPDCAサイクルと活動範囲を考慮しながら統合、整理し、238のコードを生成した。活動領域に分類し、名前をつけた。この段階での渡航看護の活動領域は、<渡航看護のための力の蓄積><他者への渡航看護の波及><渡航者支援の準備><渡航者の健康と安全とセルフケア能力の向上のための支援><渡航者の健康レベルに合わせた支援><渡航者のニーズに合わせた支援><渡航看護職のマネジメント><保健医療体制づくり>の9領域

であった。



(4) 第4段階

第3段階のコードと活動領域は、91のコードをコンピテンシーとしての表現に修正し、8領域に整理し、これを第1案とした。

渡航看護の基礎的態度

渡航看護に必要な情報の獲得や、その情報を活用できるように準備し、啓発活動を行う領域である。「渡航と健康の関連について学習の機会を得ている」「感染症に関する情報源を活用して基礎的知識を獲得している」など25のコンピテンシーによって示された。

渡航者支援の準備

渡航者のための情報ツールの作成など、渡航者支援にあたり必要な情報を整理し活用する準備を行う活動領域である。「ワクチンに関する情報ツールを作成している」など3つのコンピテンシーによって示された。

渡航者の安全とセルフケア能力向上のための支援

渡航者が渡航による安全と健康リスクについて知り、リスクを回避する自己管理ができるように支援する領域である。「渡航者の認識状況に合わせて渡航による健康リスクについて具体的に伝えている」「渡航先との文化的、医療的差異と心身の健康の影響について伝えている」など19のコンピテンシーによって構成された。

渡航者のアセスメント

渡航者の生活やライフステージ、渡航に対する認識など渡航者のヘルスニーズに合わせた支援を行うための根幹となる活動領域である。「渡航者の渡航前の準備状況をアセスメントしている」「渡航後の生活や労働、ライフステージ、発達課題や健康状況、渡航スケジュールに合わせた健康リスクについてアセスメントしている」などの7つのコンピテンシーによって構成された。

ハイリスク渡航者への支援

妊婦、高脂血症、精神疾患などの健康上のリスクを抱える渡航者に対して、自己の健康問題を認識し、渡航前に必要な準備や渡航後の継続治療に向けて必要な支援を行う領域である。「健康問題が生じた時の医療機関受診のための書類準備と常の傾向を進言している」「ハイリスク渡航者の渡航の可能性を一緒に考え、渡航の意志決定を支援している」など9コンピテンシーから示された。

ネットワークの構築

渡航医者支援について他の看護職や多職種との情報交換、他機関・多職種とのネットワークを構築し、健康相談に活用する領域である。「渡航者支援のための定期的なミーティングや意見交換を行っている」「ネットワークを通して渡航者支援に関する相互の情報交換を行っている」など4コンピテンシーによって示された。

健康支援システムにおける連携とマネジメント

渡航者支援にあたって、所属組織内外との支援システム構築や、看護職のマネジメント機能におけるコンピテンシー領域である。「所属部署の健康支援システムの課題を明確にしている」「健康支援システムに関わる関係者や部署の特徴と役割に関する情報を得ている」など21コンピテンシーから生成された。

支援活動の評価

直接的、間接的に実施した渡航者支援を評価・見える化し、フィードバックする領域である。「統計データを活用して活動評価を行っている」「対応困難事例など検討会を行い、対応方法の評価と蓄積を行っている」など3つのコンピテンシーによって生成された。

(5) 考察

渡航者に主に関わる産業、大学学校保健、トラベルクリニックの3分野の共通の特徴とし

て、支援と人的サービスに関するコンピテンシーは概ね等しく抽出され、直接的な看護サービスを提供する看護職の特徴が示された。また、産業・大学学校保健ではクリニックよりも他部署や他機関との体制づくりに関するマネジメントの能力が重要視されていることが明らかになったため、コアコンピテンシーと各分野に特徴的なコンピテンシー見出す必要があると考える。モデルの構造が見え始めた段階である。

イギリス¹¹⁾やオーストラリア・ニュージーランド¹³⁾で検討されたコンピテンシーと同様、渡航看護に携わる看護職の態度・責任、健康相談、スタッフとの連携など、表現は異なっているが共通の活動分野が見出されている。しかし、我が国の渡航看護におけるコンピテンシーでは、ワクチンの管理や接種スケジュールの確認などはトラベルクリニックなどで活動する専門的分野でのコンピテンシーであり、一般看護職には適応するとは考え難い。研究者が目指すのは、一般の看護職の認識レベルの向上であるため、広く看護職のコンピテンシーとしてどこまでを含めるのかについて検討していく必要があると考える。また、イギリスやオーストラリア・ニュージーランドのように、看護職を一般の看護職(レベル1)、経験豊富・熟練した看護職(レベル2)、上級・専門看護職(レベル3)のような分類は、看護専門基礎教育でほとんど触れられていない教育体系のわが国では難しい。一般の看護職も活用できるコンピテンシーと、渡航者に関わり機会がある看護職とのコンピテンシーの二つのレベルに分類するのが妥当ではないかと考えている。

(6) 今後課題と方向性

新型コロナウイルス感染症拡大による看護職の緊迫した勤務状況により、インタビューの協力を得ることが困難であったことや、申請者および研究分担者ともに感染症関連の業務支援に従事していたことから、当初計画に遅れが生じたものの、モデル第1案の構築に至った。研究は、終了年度前年度申請を行い、2023年度からの23K に引き継いでいくこととなった。

コンピテンシーを、一般的な看護師と渡航看護に携わる機会のある看護師との2つのレベル分類させ、精緻化する予定である。その後メンバーチェックを行い、内容確認を行っていく。

また、コンピテンシー抽出のためのインタビューを進めていく中で、渡航看護に関する認識、実施、評価の段階が表現されており、看護実践の指針となるコンピテンシーを明らかにすることの意義を確認したが、一方で、このパンデミックにより、看護学生のグローバルヘルスに対する認識が高まっていると考えられた。

よって、看護学生を含めて渡航看護をこれから学ぶ者と既に実施している者に対する2段階プログラムを検討する必要があるのではという考えに至り、新たな課題が生まれた。折しも、海外赴任者や留学生のワクチン接種やPCR検査の実施等の業務に関して事業所やクリニックでの渡航看護の認識が高まっていると推察され、認識向上のためのプログラムの検討は好機と考えられる。

研究分担者と協力しながら研究を進めていきたい。

- 1) 日本人出国者統計 2017、日本政府観光局、https://www.jnto.go.jp/jpn/statistics/20200318_3.pdf (2018. 9. 10 アクセス)
- 2) Shaffer MA, Harrison DA. Forgotten partners of international assignments: Development and test of a model of spouse adjustment. *Journal of Management*, 2001; 27: 99-121
- 3) 濱田篤郎、海外渡航者の健康問題と健康管理対策、診断と治療、88; 1238-1243、2000
- 4) 金川修造。【実地医家のための渡航医療】渡航前健康相談 小児・妊婦・高齢者の海外渡航時の健康管理(解説/特集)、診断と治療 2014; 102(4); 519-525
- 5) Halcomb E., Stephens M., Smyth E. et al., The health and health preparation of long-term Australian travelers, *Australian Journal of Health*, 23; 386-390、2017
- 6) 福島慎二、海外渡航者の渡航関連疾患に関する意識調査、日本渡航医学会誌、10(suppl); 99, 2016
- 7) 福島慎二。子どもの渡航医学(第6回) 医療的ケアが必要な子どもと渡航、チャイルドヘルス、2017; 20(11): 861-864
- 8) 太田秀樹、障害者も要介護者も海外旅行を楽しむ時代 同行医師の立場から、訪問看護と介護、2(11)、1997
- 9) 波川京子、トラベルメディスン教育 看護教育におけるトラベルメディスン、日本渡航医学会誌、1(1); 42-44、2008
- 10) ライネル・スペンサー、シグネ・スペンサー、コンピテンシー・マネジメントの展開、生産性出版、2011
- 11) Royal College of Nursing, RCN competences Travel Health nursing: career and competence development RCN guidance, 2012
- 12) Bauer I. L, Hall S., Sato N. : Providing Travel Health care – the Nurses' role: An international comparison, *Travel Medicine and Infection Disease*, 11; 2104-224, 2013
- 13) The Australasian Collage of Tropical Medicine, The Competency Framework for Travel Health Nurses of Australia and New Zealand, 2021.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 青柳美樹、多賀昌江、高山裕子、徳澤麻梨子
2. 発表標題 渡航看護のコンピテンシー 先行文献からの抽出
3. 学会等名 日本渡航医学会第26回学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 青柳美樹、多賀昌江、徳澤麻梨子、高山裕子
2. 発表標題 産業看護職が語る渡航看護のコンピテンシー
3. 学会等名 日本産業看護学会第10回学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 青柳美樹、多賀昌江、高山裕子、徳澤麻梨子、石田知世
2. 発表標題 文献から見た渡航看護のコンピテンシー - コンピテンシー・モデル開発の第1歩 -
3. 学会等名 感性フォーラム2021
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 青柳美樹、多賀昌江、徳澤麻梨子、高山裕子
2. 発表標題 渡航看護のコンピテンシー・モデルの構築 - 看護活動領域の抽出 -
3. 学会等名 感性フォーラム2024札幌
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	高山 裕子 (Takayama Yuko) (00637803)	国際医療福祉大学・保健医療学部・教授 (32206)	
研究分担者	多賀 昌江 (Taga Masae) (20433138)	北海道文教大学・人間科学部・准教授 (30121)	
研究分担者	徳澤 麻梨子(立石麻梨子) (Tokusawa Mariko) (40750154)	久留米大学・医学部・講師 (37104)	
研究分担者	石田 知世 (Ishida Chise) (50852745)	岩手保健医療大学・看護学部・助手 (31204)	~令和3年度 分担研究者

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------